

お客様からよく聞かれる質問の一つが**“末廣さんはスーツを一体何着持っているのですか？又ご自身ではどんなスーツを選ばれるのですか？”**という質問です。持っている数でいうと春夏10着秋冬10着ほどの年間合計で20着ほど、着る期間としては2～3年ほど、ですので年間7、8着のスーツを毎年仕立てています。

イルサルトを創業したのが2009年ですので今までの合計でいえば100着近い数のスーツを仕立ててき

## “革命的に変化”したスーツを選ぶ基準

イルサルトを創業し数年間は私のスーツを選ぶ基準は、“カッコイイかどうか？”ただそれだけでした。その年のトレンドを押さえた生地を選び、スーツだけでなくファッション性の高いジャケットパンツスタイルも積極的に採り入れていました。転機が来たのが2015年、友人が病気になり長期療養する姿を見て自分自身がもっと健康に気を配らなければいけないと思い、肉体改造を決意する時が来ました。生活習慣を見直し定期的にトレーニングをすることで見違える様な体のシルエットになりました。と同時にパーソナルブランド協会が主催しているセミナーコンテストグランプリ(以下セミコンと略します)に挑戦しました。

### 経営者にとってスーツとは何か？

セミコンとは自分の体験したことを再現性の高いノウハウに変え、10分間のセミナーにまとめ発表するというものです。このセミコンに挑戦する中で**“経営者にとってスーツとは何か？”**の軸が段々と明確になり、自分自身の装いに対する考え方も変わっていきました。**“経営者にとってスーツとは企業ブランドを創る最大のメディアである”**イルサルトの届けたい価値を凝縮したこの言葉に辿り着いたのもこのセミコンの挑戦があったおかげなのですが、自分自身の装いや立ち居振る舞い、生き方に至るまで**“自分がどう在るべきなのか？”**を徹底的に考え、様々なことを変えていきました。

### スーツを纏う目的とは？

それまでは自分のお洒落の表現であったスーツを、“自分ブランドを創り上げるメディア”と捉え直しました。メディアの最大の目的は**“記憶に残すこと”**“相手の記憶に強く刻み込むこと”です。目的が変わると手段が変わります、記憶に残す、メディアたるスーツにする為にはどうしたらいいのか？を考えた結果、最も人間の記憶に残りやすい**“色と形”**を意識するという方法に辿り着きました。具体的にいうと、色も形も常に同じなことが最も人間の記憶に残りやすく、たとえ形が変わったとしても色が同じであること、逆に色が変わったとしても形が同じであることが人の記憶に刻み込む為の最大のポイントであることに気づいたのです。

### 自分の伝えたいメッセージをスーツに込める

そしてもう一つのポイントは、形の力よりも色の力の方が強いということです。色の力を使うことが最も視覚的に相手の記憶にダイレクトに刻み込むことが出来るのです。又それまでは、**“服を使って”**自分の印象を良くする”や**“第一印象を良くするために”**みたいなことを言っていたのですが、これは単なる表面的なテクニックに過ぎないことが分かりました。印象を良くするために服を着るのではなく、自分の本当に伝えたいメッセージを伝えきる為**に服を纏うこと、自分の纏う服は自分の生き様の表れそのものであり、自分がこう生きていくと決める決意表明ともいえます。**

### 必ず存在する“運命の服”

**“一人一人の人生に相応しい”理想の服”**があり、その理想の服を纏うことでより自分らしい充実した人生を送ることが出来る、そんな風に服に対する考え方も変化をしていったのです。私の場合は職業が**“スーツ仕立屋”**ですので、毎日同じ色を纏うのはなかなか難しいところがあります。色の組み合わせやご提案を自分の身体を使って表現をしたいからです。ですので色の力ではなく、私は形の力を使うようにして**私の纏うスーツは季節に関係なくスリーピース若しくはダブルの二種類**だけです。

### ブランディングの為の装い

ただ昨年まではこの二つだけだったのですが、自分ブランディングを強化する為に今後は季節を問わず**“スリーピース”**のみを纏うことを決めています。ただ名刺の写真やウェブサイトで、SNSなど一目で**“経営者専門スーツ仕立屋”**イルサルト代表末廣徳司”と認識してもらふ必要のあるブランディングの為の装い所謂**“勝負スーツ”**は上から下まで毎回全く同じ装いにして、この色と形の**パワー**を最大限に使うようにしています。これが私の装いのポイントになるのですが、大きく分けて**“春夏”**と**“秋冬”**の装いのポイントをそれぞれ次にお話をさせていただきます。

たのですが、この9年間で自分自身の考え方も変化をする中で、段々と**“自分のスーツを選ぶ基準”**も大きく変わってきています。今月号のニューズレターでは私自身のワードローブを紹介させて頂きながら、私自身が**“スーツを選ぶ基準をどこに置いているのか？何をどのように選んでいるのか？”**を特集させて頂きたいと思

春夏の装いの最も大きなキーワードは**“涼しげ・清涼感”**です。また秋冬の装いの最も大きなキーワードは**“暖かみ・温もり”**になります。夏は夏らしく、冬は冬らしく季節に合わせた装いすることが非常に大切です。このキーワードを視覚化した装いにする為に装いを構成する3要素(①生地②仕様③合わせ方)をそれぞれ説明をさせて頂きたいと思

## “春夏スーツ” “秋冬スーツ” それぞれの装いポイント

### ◆ 生地

ウール素材の中でも春夏用の軽い生地、又薄めの色を選ぶことがポイントです。軽い生地も色々ありますが、メッシュの様な通気性のある生地、触って軽さや柔らかさを感じるもの、又モヘアと呼ばれるザラっとした素材の混ざったものとシワが戻りにくくなりますので、混紡率の低いものを選ぶようにしてください。

### ◆ 仕様

サイズ感は春夏用、秋冬用で変える必要はありません。前述したことが非常に大切だからです。又春夏用**“スーツはジャケットの裏地が通常の半分の”**背抜き仕様”を暑い季節には選ばれる方が多いのですが、この**“背抜き仕様”**は、軽いこと、そして通気性が良く清涼感のあることが最も大きなメリットである反面、本来あるはずの裏地が無いことで強度が若干弱くなり、総裏に比べて少し頑丈さが弱くなってしまふこと、そしてもう一つは総裏に比べるとシワになりやすいというデメリットもあります。これはお持ちのスーツの数や使い方を考えながら仕様を使い分けられるのをお勧めしています。ブランディングの為に纏う**“勝負用スーツ”**であればシワになりにくい**“総裏”**のものを、スーツの数ある程度お持ちでシーズン別に着る**“仕事用”**であれば季節に合わせ**“背抜き”**のものをお勧めします。又意外に思われるかもしれませんが、スーツに使うボタンも非常に重要で、使うボタンで季節感を出すことが可能ですので暑い季節には清涼感のある貝ボタ

### 春夏

### 春夏

### ◆ 生地

ウール素材の中でも秋冬用の少し分厚めの生地を、又深めの色を選ぶことがポイントです。秋冬用の生地も様々な種類がありますが、フランネルと呼ばれるフェルトっぽい触感の生地やカシミア、アルパカなどの獣毛と呼ばれる種類の生地は非常に保温性が高いのでオススメです。ただこうした生地は摩擦に弱いという特徴もありますので、必ずローテーションを守り1日着たら3、4日は休ませる様にしてください。

### ◆ 仕様

私の場合は自分ブランディングの為に年間通して**“スリーピース”**を着ることを決めているのですが、夏は非常に暑いのでこれは一般の方にはなかなか難しいのではないかと思います。暑い季節であってもブランディングを目的に纏う場合はこのスリーピースをお勧めしますが、気温が下がる秋冬シーズンはこの**“スリーピース”**は全く問題ありません。オススメの理由は3つあります。ベストを着ることで保温性が上がること、中にベストを着ることでより**“スーツが立体的に見えスタイルがより良く見え際立つ存在になること、そして経営者としての”**品格・存在感”を増してくれるアイテムがスリーピースだからの3つの理由です。又秋冬シーズンの**“スーツには暖かみのある革ボタンや、濃い色目や艶消しのマットな質感の水牛ボタン”**がお勧めです。



### ◆ 合わせ方

#### シャツ

シャツは春夏はメッシュ素材や生地の薄い涼しげなものを、秋冬は分厚めの暖かみのある生地を使い分けています。ただ色に関しては白か**“サックスブルー”**(薄いブルー)の無地シャツのみで柄の入っているものやカラーシャツは着ないようにしています。形に関しては、襟はセミワイドかワイドカラーで、ボタンダウンは選ばず、胸ポケットも必ず無い仕様にして

#### ネクタイ

又ネクタイは春夏用は麻やコットン素材の清涼感あるもの、秋冬用はニット素材や分厚めのシルク素材などを使い分けています。ネクタイの柄も色々ありますが、私が選ぶのは無地柄/小紋柄/ペイズリー柄の3種類のみです。様々な結び方がありますが、私は基本的には全てシングルノットで仕上げ



春夏用

秋冬用

#### 靴

最後に靴ですが、これも革の素材感で使い分けています。春夏はメッシュ等の清涼感のある革、秋冬はスエードなど暖かみのあるものです。スーツに合わせる靴は**“ひもがついているもの”**若しくは**“モンクストラップ”**で色は茶色が中心です。カジュアルなローファーはスーツには合わせず、ジャケットパンツがカジュアルスタイルの時だけにしています。



春夏用

秋冬用

スーツは春夏と秋冬に分けているけれどもそれ以外のアイテムは年間通して同じものを使っている方も多いのではないかと思います。私もかつてはそうでした。しかし**“経営者専門”**の**“スーツ仕立屋”**を名乗る上で様々なことにより気を配ろうと考え、スーツ以外のアイテム(シャツ・靴・ネクタイ・ソックス)についても相応しい季節を考える様になりました。

### 春夏 秋冬